

令和5年度
学校経営計画



奈良県立大淀養護学校

〒638-0821

奈良県吉野郡大淀町下湊 414-1

TEL (0747)52-7655(代)

FAX (0747)52-8620

学校 e-mail info046@nps.ed.jp

学校HP <http://www.e-net.nara.jp/sns/oyodoyougo/>

目 次

I	本校の教育目標	1
II	教育方針	1
III	学校経営方針（令和5年度）	2
IV	今後の本校の在り方について	2
V	教職員の運営組織	
1	担当	5～6
2	運営組織	7
3	分掌業務内容	8
4	年間行事計画表（全校行事・学部行事／分掌別）	9～12
5	各種委員会	13
VI	学校評価	14～15
VII	教育課程	
1	教育課程について	16
2	教育課程編成表	17～19
3	教科等の係	20
4	小学部	21～30
5	中学部	31～36
6	高等部	37～51
VIII	生徒指導	52～57
IX	進路指導	58
X	校内支援・地域支援	59
XI	研究・研修	60
XII	交流及び共同学習	60
XIII	人権教育	61～63
XIV	地域と共にある学校づくり	64
XV	道徳教育	65～66
XVI	健康教育と健康指導	67
XVII	学校給食	67
XVIII	安全教育と安全管理	67
	学校保健計画	68
	学校安全計画	69
XIX	防災計画	70～74
XX	救急体制	75～76

I 本校の教育目標

児童生徒一人一人の人格と人権を尊重し、障害の状態や発達段階、生活実態を的確に捉え、「自分の意見や思いを伝え行動し、主体的に生きることが出来る児童生徒」を育てる。

具体的目標

- ◎健康な「からだ」をつくる。
- ◎基本的な生活習慣を育てる。
- ◎自分の要求や思いを表現し、確かな認識力を養う。
- ◎集団の中で、共に生きる力を養う。
- ◎働く意欲や喜び、習慣を育てる。

校訓 「自立」 「明朗」 「協調」

II 教育方針

憲法、教育基本法の理念を基礎に教育目標を具現化するため、次のような方針をもって教育実践に取り組む。

- 1 全ての子どもの発達を保障し、心豊かな子どもを育てるために、全教職員の創意と特性を生かし、指導計画を立てる。
- 2 教職員の力量を高め、組織的な教育活動を展開し、見直しを行う。
- 3 子どもの実態と発達課題にあった教育内容づくり及び指導方法の工夫と教材・教具の開発に努める。
- 4 教育環境の整備・充実を図り、教育成果の向上に努める。
- 5 12年間を見通し、子どもの生活年齢や発達段階からくる要求を大切にしながら、小・中・高一貫した指導に努める。（参照①）
- 6 家庭、地域及び関係諸機関（福祉、医療、労働、教育等）との連携を密にし、共通理解を図りながら取組を進める。（参照②）

本校 学校スローガン 「元気なあいさつ、笑顔いっぱい、一人一人が輝く学校」

めざす子ども像

- ・自分からあいさつができ、穏やかに学べる子ども
- ・自分で選んだり、主体的に活動したりできる子ども
- ・自分を大切に、仲間と協力しあえる子ども

めざす学校像

- ・一人一人がきらっと輝く学校 ～くらす、はたらく、たのしむ～3つの観点
- ・一人一人の実態や環境を丁寧に捉え、教育的ニーズに応じた教育を組織的にすすめる学校
- ・地域のニーズを捉えたセンター的機能が果たせるなど、家庭や地域から信頼される学校

めざす教師像

【教育の専門家】

- ・子どもをよく理解し、自尊感情を育み、将来を見据えた指導と支援ができる専門性のある教師

【魅力ある社会人】

- ・心身共に健康で、社会人としての豊かな人間性と柔軟性をもった教師

【響き合える集団】

- ・教職への情熱があり、お互いの良さを認め合い学び合い、高め合える教師集団

Ⅲ 学校経営方針（令和5年度）

- 1 子どもたちが自分の思いを安心して伝えることができるように、いつも子どもたちに寄り添い、思いや願いをしっかり受け止める。
- 2 保護者が安心して子どもを学校に通わせ、教師と協働できるよう、必要な情報提供と情報共有に努めるなど、日常的に丁寧な連携を図る。
- 3 それぞれがもつ専門性や良さを寄り合わせ、チーム力を高め、地域の特色を生かしながら、主体性を育む体験型の教育課程づくりをすすめる。
- 4 特別支援教育のセンター校として、教育・就学相談を丁寧にすすめたり、合理的配慮等の理解啓発に努めたり、障害のある人となない人がともに活動できる機会を設けるなど、地域に開かれた学校づくりを推進する。

Ⅳ 今後の本校の在り方について

「南和地域の特別支援教育の要として、保護者や地域のニーズと信頼に応え、障害のある人となない人がともに生活できる地域づくりに取り組む学校」

<連続性のある多様な学びの場>

個別の教育的ニーズのある子どもの社会参加と自立を見据えたとき、その時点で最も確に教育的ニーズに応える指導を提供できる、多様で柔軟な環境整備として、小・中学校における通常の学級、通級による指導、特別支援学級、特別支援学校といった、連続性のある「多様な学びの場」を用意しておくことが必要となる。

本校においては、学びの連続性を具体化させるため、教育的ニーズに応じて、地域校（特別支援学級等）から本校への転校、あるいは本校から地域校（特別支援学級等）への転校を可能にする丁寧な教育相談を、地域と連携しながら実施する必要がある。

○教育活動の基本的な方針

全教職員が連携・協働を図るとともに、他職種の専門家（作業療法士、言語聴覚士、臨床心理士）との連携を積極的に図り、多角的な実態把握（発達・生活実態・障害の状態や特性・教育歴・家庭環境等。個に応じた知能検査や発達検査等の積極的な活用。また知的障害教育における各教科等の実態把握）に努める。それを基に一人一人の個別の指導計画を作成し、ニーズに応じた適切な指導と必要な支援に取り組む。

○豊かな社会参加と自立

子どもたち一人一人の障害の状態や特性、発達段階、生活実態に応じて、また将来の願いを受け止めて、一人一人に応じた「豊かな社会参加と自立」に向けた取組を充実させる。各学部でキャリア教育の視点を大切にし、各教科等の指導では家庭生活で生かせる力を育てる。

また学部毎に、社会体験学習として地域とつながりのある授業や現場体験学習、現場実習など、一層の充実を図る。

卒業後、豊かに地域で生きることを目指し、実態に応じて日中活動の場を複数組み合わせるなど、個々のニーズに応じた最適な生活の場を決定するため、早い段階から、地域の福祉や行政と連携しながら、保護者とともに進路指導に取り組む。

○地域に開かれた学校

学校行事・式典・児童生徒会活動等の改善と工夫、交流及び共同学習の推進、授業の場を地域へ広げる、地域の人材活用を進める、また本校の教育を地域に公開・発信するなど、「開かれた学校づくり」を推進し、特別支援教育の理解と啓発に努める。

○特別支援教育の充実

地域の特別支援教育力の向上を図るため、センター校として、教育相談・訪問相談・授業公開・先生のためのオープンスクール・地域の保護者も含めたタウンミーティング・行政や福祉との連携を深める学校見学会等、より一層の充実を図る。そのために、ネット配信等 ICT 活用を推進する。

○研究・研修の充実、専門性の向上

本人や保護者の願いに応えるため、社会の変化を敏感に捉えながら特色ある教育課程づくりを進める。また、学部研究・専門性向上研修・自己啓発研修等に、組織的に取り組む。

日々の指導においては、授業公開・授業研究を通して、互いに学び合い高め合える教職員集団を目指す。